

令和3年度第4回林業アカデミーふくしま運営会議 議事概要

- 1 日 時 令和4年2月3日（木） 13：30～15：30
- 2 場 所 福島県自治会館3階大会議室（各委員はリモートで参加）
- 3 出席者 別紙出席者名簿のとおり
- 4 結 果（司会進行：小檜山主任主査）

○挨拶 拶：丹治農林水産部森林林業担当次長

県では、「実践力を有し安全に現場作業を行える人財」及び「地域の森林経営管理を担うことができる人財」を育成するため、令和4年度「林業アカデミーふくしま」の本格開講に向け、各種機器の配備、研修カリキュラムの作成及び新たな研修施設の整備等を進めているところ。

また、今年度から先行実施した短期研修11講座について、多くの市町村林務担当者や林業従事者等に受講いただいた。

本日の会議では、第3回会議での御意見と対応についてのご説明や、今年度短期研修実施結果の報告と検討事項の説明をさせていただくとともに、令和4年度短期研修の実施計画及び長期研修のカリキュラム・シラバス等について、皆様より御意見や御助言をいただきたい。

限られた時間ではあるが、皆様には忌憚のない御意見を賜るようお願い申し上げます。

○議事（議事進行：金子座長）

（1）第3回会議における御意見と対応（案）について

【事務局】

（資料1に基づき説明）

【委員の意見】

特になし。

（2）令和3年度短期研修の実施結果と検討事項について

【事務局】

（資料2-1～2-5に基づき説明）

【委員の意見】

〈安田委員〉

資料2-2について、「研修に参加した市町村の中で「町」職員が最も多い」と

いう説明であったが、町単位で見ると 31 町中の 11 町であり、割合としては少ないと思う。市町村への PR は今後もしっかり行ってもらいたい。

《事務局》

参加職員数ではなく「市町村」単位としたときに全体の参加割合でみると「町」参加が少ないのは、おっしゃるとおり。町村は林務担当職員・林務専門職員数が少ないというのが要因になっていると思う。開始・終了時間を調整するなどして、できるだけ参加いただけるような工夫を行っていききたい。

〈安田委員〉

資料 2-5 について、アンケートの意見で「参加できるようなら 1 日でも参加したい」とあるが、これは複数の市町村から出ている意見か。また、1 日だけの参加というのは可能なのか。

《事務局》

複数の市町村から出ている意見。研修によっては 1 日目と 2 日目で別の内容となるもの（例：最先端の林業技術）もあり、そういう研修については受講者の要望があれば 1 日のみの参加も可能としている。ただ、原則は全日参加としたい。

〈遠藤委員〉

資料 2-5 について、県から依頼したアンケートにおいて、今回のような 7 割の回答率というのは普通なのか。このアンケートが特に回答率が低いものであるなら、市町村への周知を更に行っていく必要があるかと思う。

《事務局》

7 割という数字で一概にどうと言えないが、今回未回答の自治体へは催促も行っており、それでも本日までに回答が来たのは 41 市町村であった。

〈小松委員〉

資料 2-5 について、以前、副市長会議において林業振興課長よりアカデミーに関するお話をいただいていたところであるが、まだ研修に関するイメージがわからない部分があるかと思う。更なる PR をお願いしたい。

〈藤野委員〉

短期研修について、集合研修で最初は実施できるものと思うが、林野の研修などにおいては、年々研修生を 1 箇所を集めるのが困難となり、研修生の移動時間の短縮のためにも講師が出張する傾向がある。今すぐどうこうでは無いが、出張研修も検討するなど、地区に合わせたやり方にアレンジする必要があると思う。

(3) 令和4年度短期研修(案)について

【事務局】

(資料3-1-1～3-1-3に基づき説明)

【委員の意見】

〈飯沼委員〉

森林計画制度の研修などについては、森林において近年問題となっている盛土、それによる災害の発生など、具体的な問題事例を挙げ、研修の重要性をPRし、市町村に興味を持ってもらうなど工夫が必要と思う。

(4) 令和4年度長期研修(案)について

【事務局】

(資料4-1～4-5に基づき説明)

【委員の意見】

〈飯沼委員〉

資料4-1について、4-5の評価にも関係することであるが、例えば林産利用においては、「木造建築」であるとか波及する項目を追加していき、研修生、講師と共有出来れば良いと思う。

〈松本委員〉

資料4-1は全体の内容が分かりやすく良く出来ているので、インターンシップの説明資料としてぜひ他の委員も活用いただきたい。

(5) 令和4年度長期研修生申請状況報告

【事務局】

(資料5に基づき説明)

【委員の意見】

〈金子座長〉

後期試験について、応募している2名とも合格とする可能性はあるのか。

《事務局》

最大でも1名と考えている。

〈五十嵐委員〉

アカデミーは林業への入口としての役割を果たすもの。林業で働く人を選ぶのではなく、ここで学ぶ人が知識と技術を高め、現場で働けるようサポートしてほしい。

今回、後期試験に出願している2名がどちらも意欲的で素晴らしい人材であるならば、1人を断るのはもったいないと思う。

〈須藤委員〉

2人とも意欲があるのであれば、どちらも合格としていただきたい。

(6) その他

【事務局】

資料「林業アカデミーふくしまのコロナ対応方針について（案）」に基づき、アカデミーにおける感染症対応について説明。

また、令和4年度運営会議の開催予定について説明。中間報告として9月及び次年度に向けた計画検討として2月で調整させていただきたい。

【委員の意見】

〈金子座長〉

短期研修を含めてリモートを積極的に利用できるようお願いしたい。

〈藤野委員〉

自分が関わっている林大から2つのアドバイスをもらった。1つ目は、学生への対応について、研修生の精神的なケアをアカデミーの先生（県職員）が行うのは困難であることから、最初は教育関係者（高校教諭OBなど）に対応をお願いしていた。（高知、京都の例）ずっとではなく、アカデミーの先生も一緒に勉強していただければ。

2つ目は、安全について、安全の基準を必ず目合せしておくこと。講師によっていろいろな考え方があり、事前に外部の講師同士で目合せしてもらう必要あり。高知、京都においては講師にも安全装備を支給している。また、横井先生曰く、岐阜では森林に入る時はどんな研修内容であっても必ずヘルメットを装備するよう指導している。

〈平子委員〉

安全について、具体的な項目を今のうちに決めておく必要があると思う。ルールブックの作成や入林前のミーティング、その日の安全作業のポイントなど。

緑の雇用の集合研修もやっているが、20人程度を2～3人で指導するのは難しい。OJTではほとんどマンツーマンで指導している。アカデミーではどのように実行していくのかを決める必要。

また、山仕事をしていると鬱になる人間も結構いる。ケアは必要と考える。

〈須藤委員〉

アカデミーにおいても色んな生徒が入ってくる可能性があるし、生活環境が異なればそれぞれが別の考え方を持っている。長い目で見て、研修生がその分野に携われるようにという視点が必要と思う。アカデミーが人間形成の場であるという考えも持っていただきたい。

以上